[課程－２]

審査の結果の要旨

氏名 野中　大輔

本研究は、稲作農民とその家族のマラリア感染危険因子を特定するために行われた疫学研究である。ラオス南部の同一の 3 ケ村において、2008 年の乾季（三月）と雨季（八月）にそれぞれ、127 家族（891 名）、128 家族（919 名）を対象に横断的調査が行われた。調査では、迅速診断テストキットを用いた血液検査と家族長に対するインタビューが行われた。本研究の結果は、下記の通りである。

１．　二家族を除いて、全ての家族は殺虫剤処理蚊帳を保有していた。一家族当たりの平均殺虫剤処理蚊帳保有数は、三月では 3.5 帳、八月では 4.1 帳であった。

２．　水田稲作に従事している家族は、三月では 74.8% (95/127)、八月では 71.9% (92/128)であった。その他の家族は、焼畑稲作のみに従事していた。

３．　農地仮小屋に宿泊した人の割合は、三月では 13.7% (122/891)、 八月では 74.6% (685/919)　を占めていた。

４．　調査前夜に農地仮小屋に宿泊した人の内、殺虫剤処理蚊帳を使用した人の割合は、三月では 66.3%、八月では 95.2%であった。調査前夜に村の住居に宿泊した人の内、殺虫剤処理蚊帳を使用した人の割合は、三月では 85.8%、八月では 92.5%であった。

５．　過去二週間に 5 日以上農地仮小屋に宿泊した集団は、全く宿泊しなかった集団と比較して、マラリア陽性率に関するオッズ比の有意な差は確認できなかった。

６．　焼畑稲作農業に従事している農民の家族は、水田稲作農業に従事している農民の家族と比較して、有意に高いマラリア陽性率に関するオッズ比が認められた (調整オッズ比: 2.67, 95%信頼区間: 1.12-6.36)。

以上、本論文はラオス農村部において焼畑稲作農業は乾季のマラリア感染危険因子の一つであることを示唆した。本研究はマラリア感染予防対策の推進に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。